

自己の生き方を考える「総合的な学習の時間」の進め方 ～なりたい自分を探して～

指定校1年次 長野市立柳町中学校 宮尾昭広 高久啓三 北田満久 小沼道雄 柿崎孝幸

1 本校の新聞活用（NIE）の現状

今年度、本校は長野県NIE研究指定校1年目となり、NIEのための研究部会を新規に立ち上げた。全校研究テーマである「ひとり立ちしていく生徒・教師 ～友とのかかわりを紡いでいくことに焦点をあてて～」を受け、0からの研究を始めた。

生徒の新聞にかかわる実態は、家で購読しているもののテレビ欄や、スポーツ欄を読む程度で、地域の情報や政治経済までは読んでいないという生徒が多い。また、家で購読していないという生徒もいた。そのため、まずは新聞に慣れ親しみ、読んでみようという気持ちをもてるような指導を心がけ、研究を深めていった。

2 テーマ設定の理由

今年度は、昨年度の研究を基に、自己の生き方を考えることができる生徒の育成を目指し、全校研究主題「ひとり立ちしていく生徒・教師」を「自ら学び、自ら考え、自己を理解し、友と将来の生き方を考えることができる生徒・生徒の生き方を生徒と共に模索する教師」とし、学習指導要領の(2)(3)(4)に示された資質や能力及び態度を育成しつつ、(5)に示された自己の生き方を考えることを目指していきたい。また、副題の「友とのかかわりを紡ぐ」とは、「友の考えを共有し、自分の考えを確かなものにしたたり、友の考えから、自分の価値観を広げたりすること」ととらえて今年度は研究を行う。

高校選択をする今年、高校を調べる時間を十分にとりたいと考えている。「自分が行きたいと考えている高校にはどのような特色があるのか?」「先輩方はどのような進路をとっているのか?」などを十分調べたうえで高校選択を行わせたい。また、テストの点や部活動だけで高校選択をするのではなく、「自分はどのような人で、どのような人になりたいのか、どのように生きていけばよいのか」自分の生き方を考えながら高校選択をさせたいと考えている。ところが、中学生にとって、自分がなりたい人間像（「なりたい自分」とする）はぼんやりしている。そこで、新聞や本、動画などから、様々な人や考え、生き様に触れることで、ぼんやりしたものを、はっきりとしたものにしていく。なりたい自分をはっきりとさせていく過程で「自分は今どういう人」なのか気がつくことがあるだろう。また、今後「どのように生きていけばよいのか」の指針にもなるだろう。

自己の「生き方を考える」ことで、なりたい自分に出会い、その自分に近づけるような進路選択（高校選択）ができることを願い本テーマを設定した。

3 研究内容

- (1) 自分の「生き方を考える」ための学習の展開
- (2) 友とのかかわりを紡ぐ班による活動

4 研究の概要

- (1) 自分の「生き方を考える」ための学習の展開
 - ①「生き方を考える」とは

本研究では、「生き方を考える」とは「自分は将来どのような人間になりたいのか、自分の

なりたい人間像とはどのような人間像なのかを探し、そしてどう生きていけばよいのか考える」こととして、研究をすすめる。

3年生に進路面接で「将来どのような人になりたいのか」と問うと、銀行員、医師などのように具体的に職業を答える生徒が多い。「なぜ医師になりたいのか」と問い返すと「祖母や祖父が病気で苦しんでいるのを見て、そういう苦しみをとってあげたいから」と答えた。つまり、病気で苦しんでいる人を助けることができる人になりたいから医師になりたいと答えている。病気で苦しんでいる人を助けることができるのは医師だけではない。看護師、ヘルパー、理学療法士、介護福祉士など多くの仕事がある。医師になりたいと考えることは悪いことではない。しかし、病気で苦しんでいる人を助けるためにと考えると、自分がどのような生きていけばよいのか（特に職業）、選択肢が広がっていくのではないかと考える。

②学習の展開

「生き方を考える」学習は、教育活動全体で行う必要がある。なりたい職業がはっきりしている生徒は少ない。将来どのような人になりたいのか、なりたい自分がはっきりしている生徒はほとんどいない。しかし、授業で消防士が仲間と共に、燃えているホテルに突入していくドキュメンタリー番組（プロジェクトX）を見た時の感想では、

プロジェクトXの感想を發表しました。僕は高野さんの他人が嫌いだと思うことを自ら行う姿にとても共感し、自分もあーなりたと思います。そのために日頃から汚れ仕事をしっかりと自分から率先して行っていただけらよと考えます。人の見ていないところで、人のためになることはたくさんあると思うので、そういうことの積み重ねを大切にしたいです。

3時間目にプロジェクトXのまとめをしました。皆、高野さんの「勇気ある行動」「責任感」「優しさ」「判断力」「仲間を思いやる気持ち」などに、「すごい」と感想を言っている人が多かったです。私も同じように感動しました。たぶん高野さんは、この仕事に誇りとプライドをもっているんだろうなって私も思います。私も将来高野さんのように自分の仕事に「プライド」とか「誇り」をもてるようにしたい。

と書く生徒がいた。生徒は自分の目の前に「惹かれる人間像」「惹かれる行動や考え方」が現れると、自分でもこの人のようになりたいたと考えていく。しかし、生徒一人一人が「いいね」と感じたことを言葉にして伝え合っていくことで、自分が感じなかった高野さんの「いいね」を知り、自分の新しい価値観に気付いたり、何となく感じてはいるものの、上手に表現できない生徒も、「そうなんだよ。自分の表現したかったのはこれなんだよ。」と自分の「いいね」に気付いたりする。

友と「いいね」を伝え合うことで、自分が何をすごいと感じているのか、その本質に気付くであろう。この本質が自分の「あこがれ」だと考える。この「あこがれ」に出会うことを繰り返し、「あこがれ」を蓄積していく。そして、蓄積された「あこがれ」の中に「なりたい自分」があり、「なりたい自分」に気付いていく。

③「いいね」を新聞から探し、自分のあこがれに気付いていく

前述したように、目の前に「惹かれる人間像」が現れると、自分でもこの人のようになりたいたと考える生徒が多い。本研究では、生徒が惹かれる人間像に触れ、何に惹かれるのか、友と自分が感じた「いいね」について伝え合いながら、「いいね」の本質を探る。

生徒が惹かれる人間の行動や考え方を探すためには様々な方法があるだろう。映像資料、読み物資料、実際に働いている人に話を聞くことなど考えられるが、新聞から探させたい。新聞にはスーパースターではない極めて一般的な、いわゆる普通の人で今を生活している人の行動や考え方（生き方）が数多く掲載されている。スーパースターだけでなく、一般の人の行動や考

え方が書かれている。これが新聞の素晴らしさである。日々の新聞の中から「この人の考え方がいいね。この人の行動が素敵だな。」と思える新聞記事にアンダーラインを引く。そのアンダーラインを引いた部分の何がいいなと思ったのかを「いいね」として一言で表現していく。

信濃毎日新聞の「老舗を訪ねて」を使って学習した場面では、

新聞記事（老舗を訪ねて 篠原茂男さん、信濃毎日新聞）
「完成品を買うと中に何が入っているかわからない。自分が知らない花火をうちあげるわけにはいかない。」

という考え方に惹かれて、この部分にアンダーラインを引いた生徒が多かった。この部分の何を「いいね」と感じたのか一言でまとめさせると篠原さんの

花火への愛情

仕事への責任感

自分の作った物へのプライド

仕事へのこだわり

が「いいね」と書いた。生徒が惹かれる部分は同じだが、何に惹かれたのかは大きく違う。これが生徒の「いいね」と感じた部分である。この「いいね」と感じた部分を友と伝え合うことで、一つの新聞記事から見方・考え方（新しい価値）を広げていくこともできる。また、一言でうまく表現できなかった生徒（自分の「いいね」と思ったところを上手に言葉に表現できなかった生徒）も「あ、この言葉だよ。自分と同じだ。」（共有）のように自分が納得できるスーパー「いいね」に出会うことができる。このスーパー「いいね」を「あこがれ」とする。

④自分の「あこがれ」を言葉にして蓄積していく（ぼんやりからはっきり）

なりたい自分を探すために、「あこがれ」を言葉にして蓄積していく。

今日の4時間目の総合の時間に自分の将来のことについて考えました。私は「見本になれる人になりたい」とそのとき考えましたが、でも、今は「人の役にたつ人になりたい」と思っています。自分のことより先に人のことを考えて行動したいです。将来どんな職業に就くかわからないけど、人のために何かをしたいです。

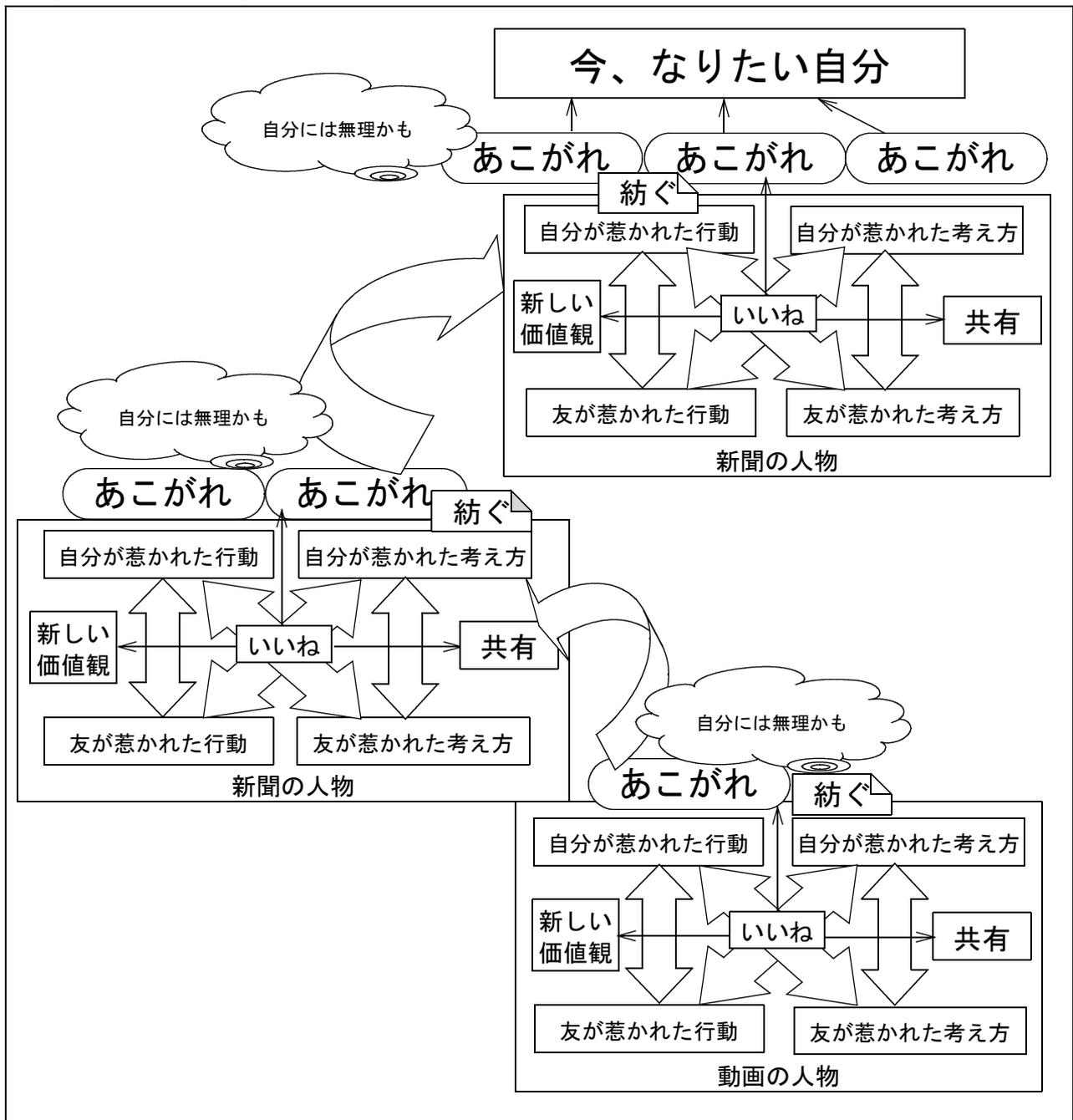
これは、「将来、私はどんな人になりたいのか」を総合的な学習の時間で考えた翌日の生活記録である。自分のなりたい自分像は、何となく感じたり、考えたりはしているものの、はっきりとはしていない。しかし、言葉にすることで、ぼんやりしていたものがはっきりとしてくる。人にとって「あこがれ」は一つではない。「あこがれ」の中で最も輝いているものや、「あこがれ」が混ざり合ったものが「なりたい自分」ではないかと考える。新聞で見つけた惹かれる行動や考え方を一言の「あこがれ」にし、それをワークシートに蓄積していく。この蓄積したものの中に「なりたい自分」があると考える。「あこがれ」を蓄積していくことで、ぼんやりしているものをはっきりしたものにする。

⑤「あこがれ」がはっきりすると、なりたい人間像がうかびあがる。

4時間目の総合の時間に自分の将来について考えました。僕は、将来人のために行動できる人になりたいと考えました。人のために行動できる職業ってどんな職業か考えたら、教員だと思いました。だから将来教員になって部活の顧問をやりたいと思いました。そのためにもっと勉強していきたいです。

これも、「将来、私はどんな人になりたいのか」を総合的な学習の時間で考えた翌日の生活記録である。この生徒は、剣道部で日頃多くの時間を剣道部のために費やしてくれている先生の「生徒のために」に「いいね」を感じ、「人のために行動できる」ことに対して強い「あこがれ」をもっている。そして、先生になり「剣道」を教えたい、人のために行動できる教員になりたいと自分の将来像を具体的に考えることができた。「あこがれ」がはっきりしてくると「なりたい自分」もはっきりしてくると考える。

⑥ 「なりたい自分」を考える構造図



(2) 友とのかかわりを紡ぐために

① 友とのかかわりを紡ぐ生徒の姿

生徒一人一人が「いいね」と感じたことを言葉にして伝え合うことで、自分が感じなかった「いいね」を知り、自分の新しい価値観に気付いたり、何となく感じてはいるものの、上手に表現できない生徒も、「そうなんだよ。自分の表現したかったのはこれなんだよ。」と自分の「いいね」に気付いたりする。このような姿を友とのかかわりを紡ぐ姿だと考える。

② 友とのかかわりを紡ぐための工夫

- ア 班による伝え合いの場の設定
- イ 話し合いのルールを決める
- ウ 進行計画をたてる（伝え合い活動がある程度パターン化する）
- エ 1回だけではなく、何回も繰り返す。

5 学習指導案

(1) 単元名 なりたい自分を探して (12時間)

(2) 単元設定の理由

1組の生徒は、自分の行きたい高校はあるものの、高校の名前に対してのあこがれ、自分の現在のテスト点、家からの距離で高校選択をしている生徒が多い。そして、3年後の進路やその後、自分はどう生きていくのか考えている生徒は少ない。

高校選択をする今年度、テストの点や部活動だけで高校選択をするのではなく、「自分はどのような人で、どのような人になりたいのか、どのように生きていけばよいのか」将来の自分の生き方を考えた上で高校選択をさせたいと担任は考えている。しかし、中学生にとって、どのような人になりたいのか、なりたい自分はぼんやりとしている。そのために、どのように生きていけばよいのか考えられないでいる。そこで、「なりたい自分」をはっきりとさせていく。そのために、新聞や本、動画などから、様々な人や考え方、生き様の中から惹かれることを探し、何が「いいね」と感じたのか一言にまとめていく。それを友と伝え合い自分は、何に対して「いいね」と感じたのかその本質を探していく。それが「あこがれ」である。この伝え合いは、友の新しい一面を生徒に気付かせていくだろう。

人間にとって「あこがれ」はたくさんあるが、「あこがれ」の中でもっとも輝いているもの(ものたち)が「なりたい自分」である。この最も輝いている「あこがれ」を探していくことが、「なりたい自分」に気が付いていくだろう。また、「なりたい自分」を探していく過程で「自分は今こういうことにあこがれを抱く人なんだ」と新しい自分に気が付くことがあるだろう。また、今後「どのように生きていけばよいのか」の指針にもなるだろうと考え、本題材を設定した。

(3) 単元の目標

「自分は将来どのような人間になりたいのか」という課題をもち、新聞記事から自分が惹かれる行動や考え方を探し、その行動や考え方の何に惹かれるのか「いいね」を言葉にする。その言葉にした「いいね」を友と共有したり、友の「いいね」を聞き合ったりすることで自分の「あこがれ」を言葉にしていく。「あこがれ」を蓄積していくことを通して、「なりたい自分」と出会い、今後「どのように生きていけばよいのか」を考えることができる。

(4) 単元の評価規準

①学習方法に関すること

(ア) 自分は、人のどのような行動や考え方に惹かれるのか、日項目にする新聞から情報を収集する。

(イ) 新聞記事で読んだ自分が惹かれる行動や考え方の何に「いいね」と感じているのか、友と共有したり、新しい価値観と出会ったり(紡ぐことを)しながら、自分の「あこがれ」を探そうとする。

(ウ) 「あこがれ」を蓄積し、「なりたい自分」を自ら探そうとする。

②自分自身に関すること

(ア) 自分がどのような人になりたいのか、「なりたい自分」を言葉で表現する。

(イ) 「なりたい自分」を目指して、進路選択をしようとする。

③他者や社会とのかかわりに関すること

(ア) 自分が惹かれる部分を友に話したり、友の惹かれた部分を聞いたりして、共有したり新しい価値観に出会ったりしながら、「なりたい自分」に気が付くことができる。

(5) 年間の総合的な学習の展開

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
← 高校調べをしよう				→ 「なりたい自分」を探して							
① 近隣にある高校の場所を調べよう。				① 新聞から自分の惹かれる行動や考え方を探そう。							
② 各高校の特色を調べてみよう。				② 何に惹かれたのか、自分の「あこがれ」を探そう。							
③ 高校の先生の話の聞こう。				③ 「あこがれ」を友と共有しよう。							
④ 高校に見学、体験に行こう。				④ 「なりたい自分」を言葉にしよう。							
← 私たち最後の運動会						→ 「なりたい自分」に近づくために					
① 私たち最後の運動会を成功させよう。						① 自分の進路を決定しよう。					
② みんなが満足する運動会にするには？						② 高校で頑張りたいことを考えよう。					
③ 「運動会スローガン」											

(6) 本時案

① 本時の主眼

自分の「あこがれ」に気付き蓄積してきた生徒が、友と自分の「いいね」を伝え合う場面で、自分が上手に表現できなかった「いいね」や自分とは違う視点の「いいね」から、新しい「あこがれ」に気付き、今まで蓄積してきた「あこがれ」も参考にしながら、「なりたい自分」の姿を考え、言葉で表現することができる。

② 本時の位置

前時…自分の惹かれる人物を紹介し、友と共有したり、友の考えを聞いたりした。

次時…「なりたい自分」を念頭に、今後の進路の具体について考える。

③ 本時案

展開 時間	学習活動	※生徒の動き 予想される生徒の反応	指導・支援・評価 ※個に応じた指導
30分	1 自分が惹かれた新聞の人物の行動や考え方を友と共有する。	※自分が惹かれた人物の行動や考え方を発表したり、友の発表を聞いたりする。 ※発表を受けて、意見を交わす。 ア 自分とは違う新聞記事だ。面白いな。 イ 自分が感じた部分ではないところに友は惹かれているのだな。 ウ 同じ部分で惹かれていても、自分とは「いいね」が違う。なるほど、そういう見方もあるな。 エ 友の考えを聞いて、自分ではうまく表現できなかったけど、まさに自分の言いたかったことはそれだよ。	◇班での伝え合いに関しては、班長が司会を行う。 ◇班長には、発表のさせ方、発表に対しての意見の出させ方を予め打ち合わせをし、伝え合いの活動がスムーズにそして深まるように打ち合わせをしておく。 ◇予め、自分の惹かれた人物の新聞記事を友に（班の仲間）に配布し、読ませておくことで、友の新聞記事に対して自分の「いいね」を伝えることができるようにする。 ◇話し合いが苦手な生徒がいる班にできるだけ多くかかわるようにする。 ◇伝え合いが終わった班から、ワークシートに今日学習した「あこがれ」を記入するよう指示する。
なり た	2 ワークシートから、今までの学習を振り返	※ ワークシートに蓄積してきた「あこがれ」を参考にし、なりたい自分を考え、ワークシートの中央部に、なりたい自分を書き込む。	◇班で、伝え合い学習が終わった班から、今までの学習を参考に、「なりたい自分」の姿を考え、ワークシートの中央の空欄に書くことを、予め司会者と打ち合わせをして

い 自 分 を 考 え る 10 分	り、「なり たい自」分 を考える。	オ 自分は、〇〇の記事を読んで、 やはり人を助けられる人になりたい い。 カ 自分は、人のために行動したり、 考えたりできる人になりたい。 キ 私は、最後まで一つのことを成 し遂げることができる我慢強い人 間になりたい。 ク 私は、人を思いやることができ る人間になりたい。	おく。 ◇「なりたい自分」を考え、ワークシートに 記入する際に、思考過程がわかるように、 新聞記事のどの「いいね」や「あこがれ」 を参考にしたのかも書くように、予め司会 者と打ち合わせをしておく。 <div data-bbox="874 398 1428 533" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">・今日の「いいね」やワークシートを見ると、 自分は、責任をもって取り組むことにあこがれ ているということに気がついた。仕事に対して 責任をもつ人間になりたい。</div> ※全く書くことができない生徒には、ワーク シートを見返させ、自分の一番あこがれる 言葉や考え方を探すように指示をする。
伝 え る 10 分	3 「なりた い自分」を 仲間に伝え る。	※「なりたい自分」を仲間に伝える。 ケ「人のために動く」ことができる 自分になりたい。将来「人のため に」なるために、〇〇の職業に就 きたい。 コ 私は、「我慢」できる自分になり たい。将来辛いことがあっても「我 慢」できる人間になる。	◇ファイルの表紙に書いた言葉を班内で発表 するよう指示する。 ◇何名かの生徒を指名し、全体の前で発表を 促す。

(7) 授業の実際

①自分の「生き方を考える」ための学習の展開

(i) 今の自分と重ねながら、「あこがれ」から「なりたい自分」を考えたA生

A生は、「自分に自信をもって生きられる人」になりたいと書いた。バレーの県選抜チームに選ばれ、自分よりもうまい選手をまとめる苦しさ、選抜チームの練習のために、思うように勉強ができない苦しさから、落ち込む日々が続いた。そんなA生が、中日の山本昌投手が49歳で勝利投手になったという新聞記事の「よい環境で野球をさせてもらっているのに甘えるわけにはいかない」に線を引き、「いいね」は「感謝の心」と書いた。しかし、B生の「自ら奮い立たせてきた。ボールを投げられる限り現役を続けることは、自分に自信がないとできないし、やれない。自分に自信をもって仕事に取り組んでいるところがすばらしい。」だから「いいね」は「自分に自信をもって仕事をする」ことという意見を聞いて、A生は、仕事に自信をもって生きている人のよさに気づき、納得し「自信をもつ」という「あこがれ」を設定した。この新聞記事と友の「いいね」と今の自分とを重ねながら、「大丈夫、きっと乗り越えられる」くじけずにがんばれるという思いをこめ「自信をもって生きられる人」になりたいと書いた。

実証授業の次の日の生活記録より

A生: 今日、総合の時間に私の「あこがれ」を選びました。私は、「自分に自信をもって生きられる人」になりたいです。これから、きっと苦しいことがたくさんあると思うけれど、自信があれば「大丈夫、きっとのりこえられる」と、くじけずに頑張れると思って、この言葉にしました。そんなあこがれの人になれるように、これから頑張っていきたい。

A生は「いいね」を友と伝え合い、自分の「あこがれ」がはっきりし、今の自分の姿と重ねながら、「なりたい自分」をはっきりと決めることができた。

★見えてきた課題→予め今の自分を分析しておく必要がある。

偶然、今の自分と重ねながら、「あこがれ」から「なりたい自分」を設定する生徒が多かつ

たが、予め今の自分を「自分の良さ」「今の自分の課題」という観点から自己分析（友からの分析）をしておく、今回の展開がさらに効果的になったのではないか。

(ii) 自分の共通した「あこがれ」から、習いたい自分を決めだしたC生

C生は、自分の「あこがれ」の中に共通した言葉があることに気が付く。その言葉は「感謝」という言葉である。今まで蓄積してきた「あこがれ」の中や、「いいね」の中にも「感謝」という言葉が多かった。この共通した言葉に気が付いたC生は、「なりたい自分」を「当たり前のことを当たり前と思わず、感謝の気持ちを忘れない人」と書いた。そして、級友の前で、今まで勉強をしてきて、「あこがれ」や「いいね」の中で「感謝」という言葉が多かったので、自分は「感謝できる人」になりたいんだということがわかり、「当たり前のことを当たり前と思わず、感謝の気持ちを忘れない人」になりたいと発表した。一つの新聞記事からではなく、今まで蓄積してきた「あこがれ」や「いいね」の中から総合して、C生は「なりたい自分」を見つけることができた。蓄積していくことが効果的であった。

★見えてきた課題→もっと多くの蓄積があると効果的ではないか。

今回蓄積したといっても、10日分の新聞からだけの結果である。もっと、蓄積していく量を増やしていくことも効果的ではないか。また、今回は、8月・9月・10月と短い期間で行ったが、長い期間行うことも効果的なのではないかと考える。

②友とのかかわりを紡ぐために

友との関わりの中から、自分の価値観を広げていったD生

D生は、自分が一番気に入った「あこがれ」である「自分に厳しく、我慢できる人」をなりたいたい自分に設定した。

D生は、勉強をしなければいけないにも関わらず、テレビを見たり、寝てしまったり、遊んでしまったりしてなかなか勉強ができない日々が続いていた。そんなD生が、東北復興祭のフィナーレを飾るイベントである段ボールで作ったドミノでドミノ倒しをするイベントの新聞記事で、主人公の岸さん（16）の災害に真正面から立ち向かっていく考え方に対して、自分の「いいね」を「あきらめない」とした。「自分たちが震災の話をついに封印し、本音を言わないのに、県外の人に理解してほしいというのは甘えではないか、もっと自分が動かなきゃ。」という岸さんの考え方に対して、E生は周りのせいではなく、自分を見つめなおして改善しようとしていることを「自分への厳しさ」ととらえた。そのE生の「いいね」を聞いたとき、D生は「そっかー」とつぶやいた。そして、本時のあこがれを「自分への厳しさ」とし、「なりたい自分」を「自分に厳しく、我慢できる人」とした。

実証授業の次の日の生活記録より

D生:4・5時間目の総合で、新聞を読み、「なりたい自分」を考えることをやりました。今まで10個の新聞を読んできて、1番よかった「あこがれ」をなりたいたい自分にしました。私は、自分にもっと厳しくなれる人になりたいです。お母さんや先生、Mとかからも、甘いと言われ続けてきて、「2学期の目標を自分から厳しくあきらめない気持ちをもつ」と設定しました。新聞を読んで、新聞の人たちの、我慢して頑張っている姿、あきらめないで頑張っている姿を勉強しました。だから、大人になっても甘いままではなくて、あきらめず、自分に厳しい人になる。我慢する心をもてる人になりたいと思いました。それが、今からできるよう成長していきたいです。

また、この後、D生は学習に対して意欲的に取り組んでいる。土日は、午前中から何時間もテスト勉強に励んだり、休み時間なども問題集に取り組んだりする姿をよく目にするようになった。D生は、友の「いいね」とその理由から、新しい価値観に触れ、自分が心の奥にあった「なりたい自分」に出会うことができた。友とのかかわりを紡ぐことができたと考える。

6 研究の成果と課題

(1) 自分の「生き方を考える」ための学習の展開

成果：新聞を選択する→自分がいいなと思った所に線をひく→「いいね」を考える→「いいね」を伝え合う→「あこがれ」を蓄積する→「なりたい自分」に気付いていく。このような学習展開を考えたが、教師の思っている以上に意欲的に取り組んでいた。それは、友とのかかわりがあったからではないかと考える。友とのかかわりの効果は次のものも考えられる。

自分の「いいね」を友が真剣に聞き、付箋に書いて新聞に貼る。
自分の「いいね」に対する共感的なコメント。
自分が上手に言えなかった「いいね」との出会い→かゆいところに手が届いた感じ。
自分が思いも付かなかった価値観との出会い。

つまり、「生き方を考える」ための上記の学習展開は効果的であった。

課題：長い期間・多くの新聞で行うともっと効果的ではないか。

(2) 友とのかかわりを紡ぐ班の活動

友とのかかわりを紡ぐためにア～エの手立てをとった。また、付箋に友の「いいね」を書かせたために、友の話をよく聞くことができた。友とのかかわりを紡ぐ班の活動のために以下のことが必要だということがわかった。

ア 班による伝えあいの場の設定。
イ 話し合いのルールを決める。
ウ 進行計画をたてる。(伝えあい活動がある程度パターン化する)
エ 1回だけではなく、何回も繰り返す。

①友の話をよく聞き、メモを取る→自分の意見を大事にもらい、友と自分の考えの相違点わかる。また、話し合いの楽しさもわかる。
②意見に対してのコメントを言う→共感的なコメントでは、自分の考えに対しての自信が深まる。違うコメントでは、価値観の広がりが見られる。
③マニュアルと繰り返し →最初は、話し合い方を決めて司会計画を作る必要がある。そして、それを繰り返していく。司会者だけの反省会を行い、話し合いを円滑に進めていくための話し合いも必要

①～③はあくまでも、話し合うための方法である。話し合うための方法も考え、研究していく必要がある。しかし、同時に「なぜ友とかかわる必要があるのか」また「何のためにかかわらせるのか」を生徒、教師が理解している必要がある。今回の授業では、友の「いいね」から、自分の本当に言いたかった事に気が付いたり、新しい価値観に気が付いたりすることができるという明確なねらいがあった。生徒も友とかかわる必要感があった(大切さがわかっていた)のではないか。

(3) 来年度への課題

まだ、マニュアルを使って話しているのが現状である。友の意見を聞いて、コメントをする。そのコメントを聞いて、さらにコメントを返すというように、話を深めていくことが大切だと考える。そのためには、「方法」「必要感」の両面をさらに教師が研究していく必要がある。それを、学校全体で取り組んでいくと、効果も大きいのではないかと考える。